

令和5年度助成事業の実施状況について（NPO法人 あそびと文化のNPO新宿子ども劇場）

	団体名	事業名	事業概要	実施状況
1	NPO法人 あそびと文化の NPO新宿子ども劇場	子どもの文化体験格差 解消プロジェクト (助成回数：1回目 助成額：335,000円)	① 事業の対象者 小学生、小学校や学童クラブなどで関わる先生や指導者、子どもを支える団体の関係者 ② 事業目的 ・アフターコロナの子ども達に対し、保護者の意向に関わらず、分け隔てなく全ての子ども達に文化体験の機会を届けること ・子どもに携わる大人も一緒に体験することで、日常の中のあそびを広げること ・子どもに関わる人々と体験格差について学び、まとめ資料を作成すること ③ 活動内容 (1) 小学校でプロアーティストによる体験授業を実施する「アーティスト派遣事業」 (2) 学童クラブ等で実施する「あそびの出前事業」 (3) コロナ後の子どもや保護者の実情を共有学習する「講演会事業」 (4) 体験格差の現状を明らかにする資料の作成など子どもの文化体験里親寄付制度への準備事業を実施する。 ④ 現在の状況 「みらいチケット」については継続して行っている。	<事業概要> ■アーティスト派遣事業（総参加人数130名 各小学校にて実施） 小中学校に個人または少人数の芸術家を派遣し実技披露・実技指導を実施 ①12月12日（火）参加者53名 会場：戸山小学校体育館 コンテンポラリーダンスの手法を取り入れ、体を使った表現活動を実施 ②12月19日（火）参加者77名 会場：市谷小学校 落語の表現方法を通して想像・創造を体感 ■あそびの出前事業（総参加人数166名 各学童にて実施） 子どもたちに文化体験の機会を届けるとともに、そこに携わる大人に対するあそびを広げ、あそびを通した子どもたちの多様な側面に気付いてもらうために実施 ◆プログラムA みんないっしょに名探偵（ごっこ遊びの手法を取り入れた五感あそび） ①11月28日（火）参加者34名 ②12月6日（水）参加者34名 ◆プログラムB あそびの出前講座（集団遊び・わらべうた・工作プログラム） ①10月11日（水）参加者58名 ②1月24日（水）参加者30名 ③2月7日（水）参加者10名 ■講演会（総参加人数58名） ①おとなりはどんな子 7月8日（土）（34名参加 若松地域センター） 子どもへの支援を行っている団体の活動内容や、子ども達の様子を知ることで世代格差や障害を乗り越え、子ども達が安心して生活できる地域づくりについて考える ②育つなら新宿一子どもの身近に文化体験をー 12月3日（日）（24名参加 戸塚地域センター） 国の文化、政策や行政、NPOの役割を踏まえ、全ての子どもには芸術や文化を平等に楽しむことができる権利の必要性について考える ■実行委員会（総参加人数133名 戸塚地域センター、ゆったりーの） 7月～3月にかけて8回開催 文化里親寄付制度準備実行委員会として、講演会を受けて、区内に様々な子どもたちがいることを再認識をし、文化体験格差を減らすためにどうしていけるかの話し合いを実施。 <事業の成果> アーティスト派遣事業及びあそびの出前事業については、「やりたい」、「もっとやりたい」と回答した児童数が82%と高い満足度を得られた。また、集団での遊びをしつづける児童が積極的に遊ぶ様子も見られ、今年度実施した学童クラブより、今後の実施についての問い合わせも来ている。 講演会では、各団体の活動を通して、子ども達を取り巻く環境、周りとのように関わっていくのかを考えるきっかけになり、すべての子ども達に文化体験の機会を届けることの大切さと、それを支えるために民間・行政・企業がそれぞれの立場でできる事を見極めて協働していくことの必要性が確認できる機会となった。 文化体験里親寄付制度への準備実行委員会では、ネーミングからシステムまで、実行委員会を通して話を重ね、制度を組み立てる事ができ、トライアルとして1月の鑑賞会に「みらいチケット」を発行し、4つのNPOを通じて3組の親子の参加があった。 区としては、当事業は目標を概ね達成している点や、実際にイベント等を実施したことで子どもたちの文化体験の機会を提供でき、併せて、寄付により事業を継続できる体制づくりに繋がっていることから、助成金の効果があったと考える。

令和5年度助成事業の実施状況について（NPO法人 あそびと文化のNPO新宿子ども劇場）

活動の様子



◀ ▲各講演会での様子。多くの方が参加しました。

■参加者の声（一部抜粋）

＜学童先生より＞

・子ども達の表情から、とても楽しんでた様子が溢れていました。手遊びは室内でもやり続けていたり、工作の飛行機を大事に持ち帰ったりと、普段とは違う充実した時間を過ごしていたと思います。
 ・普段やったことがないあそびがたくさんでとても集中していました。プログラムのやり方も参考になりました。

＜参加者の声＞

・「困った子が困っている子」というのが印象的で今の自分の子どもたちの状況に学校の状況を重ねて聞いていました。
 ・現場の方の生の声を聞くことができ、また、リアルなケースの紹介があり、学ぶことが多かったです。個人的には経済的な格差やルーツの違いに関わらず、子どものいる家庭の孤立は進んでいるように感じています。自分自身が地域とつながることの大切さをより感じる機会となりました。

令和5年度助成事業の実施状況について（NPO法人 First Step）

	団体名	事業名	事業概要	実施状況
2	NPO法人 First Step	区民のためのひきこもり (不登校を含む)への理解 と対策講演会及び、ひき こもり個別無料相談会 (助成回数:1回目、 助成金額:268,000円)	① 事業の対象者 民生委員・児童委員、町会役員、ひきこもり当事者及び家族、支援をしようとしている一般区民 ② 事業目的 ひきこもり(不登校を含む)への「地域住民の理解促進」と対策の周知及び家族会の存在の周知を目的とする。 ③ 活動内容 講演会「ひきこもり(不登校を含む)への理解と対策」を開催し、講演会の翌日に「ひきこもり個別無料相談会」を実施する。 ④ 現在の状況 昨年度と同様に活動している。	<事業概要> ■区民のためのひきこもり（不登校含む）への理解と対策講演会（85名参加） 『斎藤環氏の「ひきこもり」講演会』 令和5年12月9日（土） 四谷地域センター多目的ホール 内容：ひきこもりがますます増える理由と、当事者たちの社会復帰を支援する方法について 周知：広報しんじゅく 10月5日号掲載 その他民生委員、各区施設にチラシ配布 区SNS（LINE・ツイッター・Facebook・yahoo!くらし） 11月3日配信 団体が持つ区内のあらゆる知り合いを通して、チラシを配布して周知 団体のSNSを通じた周知 ■ひきこもり個別無料相談会（4家族参加） 令和5年12月10日（日） 戸塚地域センター会議室3・4 内容：講演会の波及効果を期待し、講演会の翌日にひきこもりや不登校のお子さんを持つご家族向けに相談会を実施 周知：広報しんじゅく 11月15日号掲載 <事業の成果> 【講演会】 当日の参加者は85名であり、区民の方、及び新宿区に在勤、在学の方の割合は4割程度であった。講演会については参加者の評価は大変高く、満足度80%以上の高評価は93.4%であった。 【ひきこもり個別無料相談会】 講演会の翌日に行った個別相談会には、定員の4家族の参加があり、相談を行った結果、3家族が会の親の勉強会に参加することになった（残り1家族は、対象の不登校児童がまだ幼く、しばらく様子を見ることをお勧めした）。 個別相談会において、参加したすべての家族に確認したところ、新宿区にひきこもり・不登校の家族会があることを全く知らないことが確認でき、ひきこもり・不登校で悩む方々の助けとなるためには、「家族会」の周知が課題であることがわかった。 区としては、今後の課題が明確になった点や相談会の参加者を勉強会という次のステップへ進めることができた点において、おおむね一定の効果があったと考える。

活動の様子



▲多くの参加者が出席した講演会の様子



▲講演を熱心に聞き入る当事者の親たち



▲対話の大切さを説く講演者

■参加者の声(一部抜粋)

【講演会】

・私も長い間ひきこもっていましたが、そういう状態から脱せる人は非常に少ないというのは納得できます。

・NPOの方で関わった方たちの成功例、失敗例などの事例提示があると、参加者のモチベーションになると思う。

【無料相談会】

・個別相談会では丁寧に話を聞いていただき有難うございました。区内にこういった家族会があることを全く知りませんでした。親子の信頼関係に問題があることはなんとなく気が付いてはいましたが、医師やカウンセラーに安易に解決策を求めるばかりしていました。親こそが回復に至る道の主役である、という言葉には納得いたしております。これからは、親の勉強会に夫婦で参加し、夫婦間、親子間の信頼を回復させていきたいと思っています。

・ここに来て、とてもよかったです。同じ、ひきこもりの子を持つ経験者とお話ができて、なんだか、気持ちがとても楽になり、涙が止まりませんでした。主人も連れてくれば良かったと思っています。帰ったら早速、主人に話をして、勉強会と一緒に参加するつもりです。

令和5年度助成事業の実施状況について（NPO法人 シャプラニール＝市民による海外協力の会）

団体名	事業名	事業概要	実施状況
NPO法人 シャプラニール ＝市民による海外協力の会	「わたしの隣の外国人」を知る・つながる連続講座 (助成回数：1回目、助成金額：205,000円)	① 事業の対象者 地域課題に関心がある人、多文化共生に興味がある人、同じ地域に住む外国人の状況について知りたい区民 ② 事業目的 連続講座を通じて、日本や地域コミュニティにおける在住外国人の状況について理解を深め、在住外国人と共に暮らすことを我が事として捉えるような意識の変容や主体的に関わるといった実践に繋げることを目的とする。 ③ 活動内容 外国人受入れの変遷の振り返りや現状、区内の多文化共生の状況、地域活動を行う人の活動紹介、在住在勤外国人による母国文化の紹介など多文化共生の学びを深める講座を開催する。 ④ 現在の状況 昨年度と同様に活動している。	<事業概要> 「わたしの隣の外国人」を知る・つながる連続講座 (総参加人数 60名 会場：大久保地域センター) ■第1回 私の隣の外国人～日本の在住外国人について知ろう (18名参加) 令和5年8月26日 (土) 開催 ■第2回 多様な人々が行き交う町、新宿～新宿の在住外国人について知ろう～ (23名参加) 10月21日 (土) 開催 9月15日号広報しんじゅくに掲載 ■第3回 みんなが住みやすい町、新宿～新宿の多文化共生について考えよう (9名参加) 12月9日 (土) 開催 ■第4回 新宿で暮らす外国人とのお話会 (10名参加) 2月17日 (土) 開催 <事業の成果> 本事業では、新宿の多文化共生の状況や共生の形について、新宿を拠点に活動を行う団体や新宿で暮らす外国人を講師やゲストとして招き、4回の連続講座を開催し、計60名の方が参加した。 本事業を実施したことで、講座を受講した方が多文化共生コミュニティスペース「マザリナ」を知り、累計6名の区民が、イベントボランティアとして参加するようになった。コミュニティスペースでは、日常生活で困りごとを抱える外国人に対して、地域の日本人がゆっくりとした日本語で説明し、サポートをする場面が多々見られるようになった。 アンケートによる満足度は、全回の平均で86.8% (回答数53件) であり、内2回は全ての参加者の満足度が80%以上であった。 区としては、本事業により受講者の多文化共生コミュニティスペースへの参加を促進し、区民の具体的なアクションにつなげることができた点において、外国人と地域住民との間での交流が生まれ地域内の多文化共生の推進の一助となったと捉え、おおむね一定の効果があったと考える。

活動の様子



▲ 第一回講演会の様子



▲ 意見交換を行う参加者

■参加者の声(一部抜粋)

- ・在住外国人が過ごしづらさを感じる理由・原理・現状を知り共生社会について考えさせられた。
- ・差別と偏見は見つけようと思わなければ見つけられないという言葉が胸に刺さった。
- ・複数団体の話を1回の講座で聞けて良かった。
- ・団体毎のより詳しい話について聞きたいので、もう少し講座の時間を長くして欲しい。
- ・ゲストスピーカーともしっかり話したかった。
- ・地域の外国人の声が聴けるイベントに、地域の日本人を多く呼び込めるとより素敵だと思う。

令和5年度助成事業の実施状況について（チーム・フランポネ）

	団体名	事業名	事業概要	実施状況
4	チーム・フランポネ	新宿国際交流漫才大会 S-1グランプリ (助成回数：1回目、 助成金額：500,000円)	① 事業の対象者 外国人留学生、日本人 ② 事業目的 芸人の視点で「お笑い×新しい多文化共生」を提案するというテーマで、外国人留学生と区民がお笑いを通じた交流を促進させ、外国人に対する差別意識の軽減を目的とする。 ③ 活動内容 新宿区の日本語学校などで、2分間の漫才の完成を目指す講座「漫才作成講座」の実施と、外国人留学生による漫才大会「新宿国際交流漫才大会 S-1グランプリ」を開催する。 ④ 現在の状況 新宿区産業振興課主催のビジネスプランコンテストにエントリーし、漫才大会を実施予定。	<事業概要> ■日本語教師説明会 令和5年7月21日（金） 日本語教師25名参加 新世界語学院教室にて開催 ■漫才作成講座 7月から2月までの8か月間で25回 参加人数：延べ217名（外国人留学生） 会場：新宿区内にある日本語学校、日本語教室等（早稲田EDU日本語学校、ミツミネ日本語学校、KAI日本語学校など） 早稲田EDUで実施した「漫才で覚える日本語」の様子が東京新聞の取材対象となり10/5付の東京新聞朝刊にてカラー一面で紹介された。 ■S-1グランプリ 令和6年2月24日(土)開催 漫才大会の出演者；3組6名、一般参加者：8名 会場：四谷地域センター日本語学校約10校が参加予定。11月からチラシ及び広報しんじゅくにて情報発信予定。 周知：チラシの設置や配布等 その他、多文化共生推進課と連携し、日本語教室において参加者募集チラシを配布する。また、NPO法人シャブラニール＝市民による海外協力の会と連携し、同団体が開設した「マザリナ」のオープニングイベントに出演した。 <事業の成果> 日本語学校（5校）、大学1校、新宿区にある図書館1箇所にて漫才作成講座を実施し、日本語教師の先生方に対して実施したアンケート結果では、86.7%の先生から80%以上の満足度との回答があった。 新宿国際交流漫才大会S-1グランプリについては、中国とベトナムからの留学生が春節のため帰国、もしくは本国から家族や両親が遊びに来る等の理由で、出演者数・参加者数が目標数を下回り、次回以降は開催時期の調整や講師の派遣費用の確保など、新たな課題が見えてきた。 区としては、今後の開催について課題はいくつか見られたが、参加者が楽しみながら多文化共生に触れる機会を設けることができた点、当事業を通して他の団体と連携し、外国人だけでなく他の地域課題についても可能性を広げることができた点から、一定の効果があったと考える。

活動の様子



▲漫才作成講座での代表と受講者の様子 ▶



▲参加者みんなで記念撮影



■参加者の声（一部抜粋）

【漫才作成講座】

（日本語学校より）

- ・どんな分野でも日頃関わらない日本人と関わることには価値があると思います。学生にとって新鮮だっただけでなく自分が知らない学生の一面が見られました。
- ・学生の別の顔が見られた点です。かなりのボリュームの具体例をインプットすること、ポジティブなフィードバックを与え続け、ハードルを下げることで、楽しんで参加する雰囲気を保つことで、普段消極的な学生の違った側面が見られ、感動しました。

【新宿国際交流漫才大会S-1グランプリ】

（参加した留学生より）

「こんなに簡単に漫才ができるとは思わなかった」、「楽しかった」、「漫才とは何かが分かった」などの肯定的な意見が多数あった。一方で作ったネタを漫才大会で披露するのは難しい、という意見もあった。

	団体名	事業名	事業概要	実施状況
5	NPO法人 えがおさんさん	秋まつり (助成回数：1回目、 助成金額：381,000円)	① 事業の対象者 障害のある子どもとご家族、地域の方 ② 事業目的 重い障害の子を育てる家族は、様々な課題から外出へのハードルが高く、安心して楽しめるイベントへの参加は難しいため孤立しがちな背景を踏まえ、子どもの体調管理や身体介護も実施しながら、安心して参加できるイベントを開催することを目的とする。 ③ 活動内容 難病・障害のある本人と家族向けに有志ボランティアが、区内の養護学校等で秋まつりを開催する。室内でのお祭りの開催・外部依頼出演者や学生ボランティアによる出し物・緑日(ゲーム体験)・おもちゃ等機器の体験ブースを展開する。 ④ 現在の状況 昨年度と同様に活動している。	＜事業概要＞ 秋まつり(合計28家族・82名参加 ※後日オンライン配信で10名参加) 実施予定日：令和5年11月25日(土) 会場：新宿養護学校(会場を特例で使用しているため、養護学校の要請により会場は非公開(参加者のみに連絡)) 周知：10月25日号広報しんじゅく掲載、チラシの設置や配布等、区公式SNS 出し物：ボール落とし、ボール投げ、ワニワニパニック、ボランティアによるショーなど ＜事業の成果＞ 本事業は、新宿区及び23区内の難病や障害、医療的ケアのある本人とご家族に向けて、参加型のイベントを開催した。午前・午後の2部制で開催し、合計28家族・82名が参加した。また、当日参加が出来なかった方にも楽しんでもらえるよう、イベントの様子を撮影し、後日オンラインでの配信も行い、10名の参加があった。 イベントには、総勢40名強のボランティアの参加があっただけでなく、区内作業所のパン屋さんの出店もあり、区民の社会貢献活動の啓発に寄与する事業を実施することができた。 参加者アンケートでは、回答いただいた方全員から「満足した」と回答があり、区としては、イベントへの参加人数が目標(200名)に満たなかったものの、参加者からは好評であった点、また区民等の社会貢献活動への参加の契機になったことから、おおむね一定の効果があったと考える。

活動の様子



▲音楽に合わせてダンスを楽しむ参加者



▲セネガル出身の演奏家によるドラム演奏に興味津々の様子

■参加者の声(一部抜粋)

- ・子どもが飽きないように、たくさんのプログラムを用意していただいていたのが良かったです。
- ・子供が楽しく過ごしていた。好き勝手動いていたが、皆さんあたたかく見守ってくれていてお姉さんとも楽しく遊んでもらえてニコニコでした。
- ・去年はzoom参加でしたが、やはり実際に参加してみると目の前で生演奏やピエロの手品を見ることができて、息子も嬉しそうに目をキラキラさせていたので、zoomとは迫力が違いました！私達も一緒に久しぶりに楽しみました。
- ・はじめは緊張していた我が子も、帰りには「楽しかった～」と言って満足していました。
- ・どれも貴重な経験となったと思いますし、子供達の楽しそうな顔が印象的でした。
- ・参加型の出し物が多く、スタッフの皆さんのお世話により息子も楽しそうでした。